



## 2021年度 第1回 太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2021年8月~12月)のポイント

#### 海況

黒潮は大蛇行が継続し、A型<sup>(※1)</sup>基調で推移する。沿岸水温は、潮岬以西は「平年並」<sup>(※2)</sup>~「高め」<sup>(※2)</sup>、熊野灘~遠州灘~伊豆諸島北部海域~相模湾は「平年並」~「高め」で暖水波及時に「極めて高め」<sup>(※2)</sup>、伊豆諸島南部海域は概ね「高め」、房総~常磐南部海域は「平年並」~「やや高め」<sup>(※2)</sup>で推移する。

※1 黒潮を遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路で分類する

A型：流路南端が北緯32度以南

※2 平年並=平年値±0.5℃程度、やや高め=平年値+1.0℃程度、

高め=平年値+1.5℃程度、極めて高め=平年値+2.5℃以上。

ただし、鹿島灘~常磐南部海域の基準は次頁末尾を参照のこと。

#### 漁況(来遊量予測)

##### マイワシ

前年並の海域が多い。

##### カタクチイワシ

前年並~下回る海域が多く、引き続き低水準。

##### ウルメイワシ

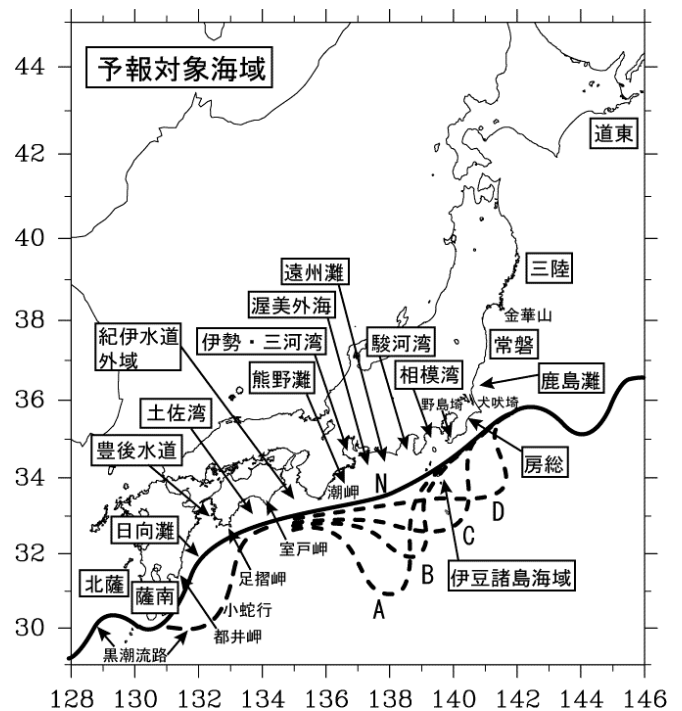
全体として前年並。

##### マアジ

前年並~上回る。

##### マサバ・ゴマサバ

マサバは前年を上回る。ゴマサバは低水準。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当 企画調整部門(横浜) 森永

漁況：浮魚資源部(横浜) 福若、由上、古市、安田、木下、渡邊

海況：海洋環境部(横浜) 市川、日下

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

## 中央ブロック海況予報

### 今後の見通し（2021年8月～12月）

#### (1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

##### ◎潮岬以西

- ・都井岬～足摺岬沖では、接岸傾向で推移する。
- ・室戸岬～潮岬沖では、離岸傾向で推移する。

##### ◎潮岬以東

- ・大蛇行が継続し、A型基調で推移する。
- ・伊豆諸島海域では、概ね西側を北上する。
- ・房総沖では、概ね接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがある。

#### (2) 薩南～房総海域

- ・都井岬～足摺岬沖では、黒潮の離接岸変動は小さい。
- ・室戸岬～潮岬沖では、黒潮北縁から暖水が波及することが多い。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域～相模湾では、黒潮の蛇行北上部から暖水が波及することが多い。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね暖水域に覆われる。
- ・房総沖では、黒潮から暖水が波及しやすいものの、一時的に沿岸水が分布することがある。

#### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・黒潮の一時的な離接岸変動に伴って暖水が波及することがある。

#### (4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は、「平年並」～「高め」で推移する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域～相模湾は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね「高め」で推移する。
- ・房総～常磐南部海域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上  
（鹿島灘～常磐南部海域では、平年並＝平年値±1.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.5～4℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±4～6℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±6℃以上）

## 経過（2021年3月～7月）（注：経過は図2を参照のこと）

### （1）黒潮

- ・ A型流路の大蛇行が持続したが、3月中旬～4月初旬と、5月上旬～中旬の一時期に、八丈島の南側を通過する非典型的なA型流路となった。
- ・ 5月中旬以降、伊豆諸島海域の西側を北上し、石廊崎沖～御蔵島付近を通過する流路をとることが多かった。
- ・ 房総沖では、3月下旬～4月中旬に大きく離岸したものの、概ね接岸傾向で推移した。

### （2）薩南～房総海域

#### ◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁の月平均位置は、4月は接岸、5月は屋久島南付近の平均的な位置、6月は接岸で推移した。

#### ◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖では、3月～4月は概ね離岸傾向、5月以降は概ね接岸傾向で推移した。
- ・ 足摺岬沖では、3月上旬は「接岸」～「やや離岸」で、3月中旬～5月上旬に「かなり離岸」～「著しく離岸」で推移した後、5月中旬以降は「接岸」～「やや離岸」で推移した。
- ・ 室戸岬沖では、3月上旬は「かなり離岸」、3月中旬に一時的に「接岸」した後、4月～5月中旬に「著しく離岸」し、5月下旬以降は「かなり離岸」で推移した。
- ・ 潮岬沖では、黒潮大蛇行に伴い概ね「著しく離岸」で推移した。
- ・ 紀伊水道外域では、黒潮北縁から繰り返し暖水が波及した。

#### ◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘にかけて、3月上旬～中旬、4月下旬、5月上旬、6月中旬～7月上旬に、黒潮内側反流が形成された。また、3月上旬、3月下旬～4月中旬には小暖水渦が形成されるなど、暖水の影響が継続した。
- ・ 黒潮から駿河湾および大島西水道へ向けて断続的に暖水が波及し、特に6月中旬には、相模湾内に顕著な暖水波及がみられた。
- ・ 八丈島付近は、3月中旬～下旬、5月上旬～中旬に、黒潮流路の変動に伴い一時的に冷水域に入った。
- ・ 房総沖では、3月下旬～4月中旬を除いて黒潮接岸による暖水波及の影響がみられた。

### （3）鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 期間を通じて黒潮からの暖水波及の影響がみられることが多かった。

## 現況（2021年7月27日現在）

### (1) 黒潮

- ・ A 型流路であり、大蛇行が継続している。
- ・ 室戸岬沖から大きく離岸した後、遠州灘沖で  $30^{\circ}$  N 付近まで南下し、御前埼沖まで北上した後、三宅島付近から北東へ流れている。

### (2) 薩南～房総海域

#### ◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬～足摺岬沖で「やや離岸」、室戸岬沖で「かなり離岸」し、潮岬沖で「著しく離岸」している。

#### ◎潮岬以東

- ・ 駿河湾沖の黒潮屈曲部から遠州灘～熊野灘、大島西水道に向けて暖水が波及している。
- ・ 八丈島付近に、冷水域がみられる。
- ・ 房総沖では、黒潮は「やや接岸」している。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響がみられる。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

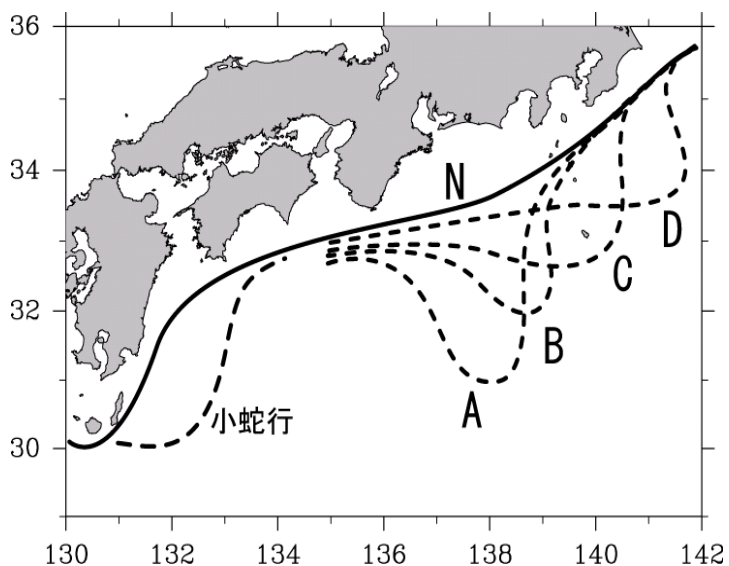


図1 黒潮流型の分類

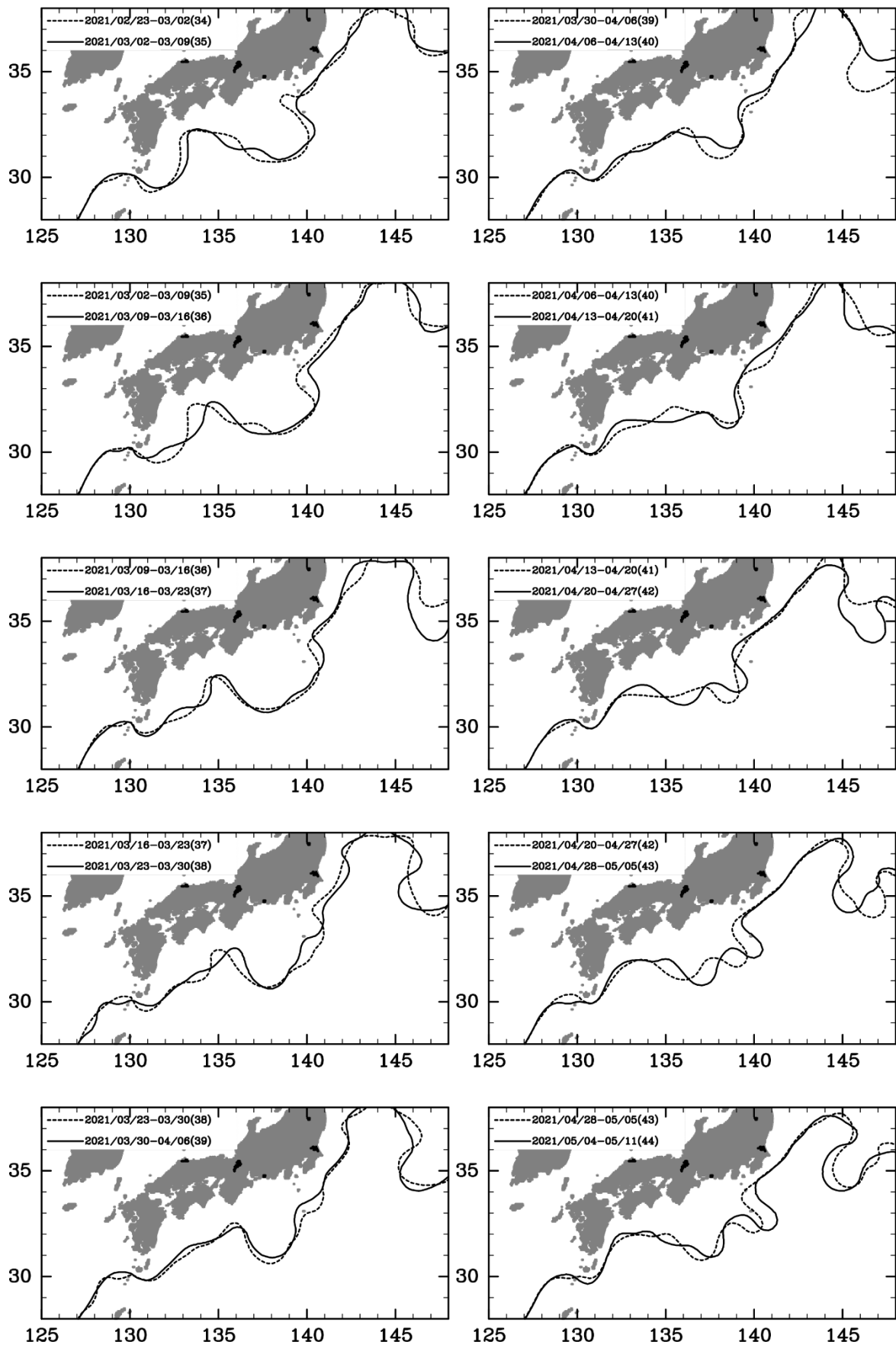


図2 黒潮流軸のパターン

(2021年3月~5月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

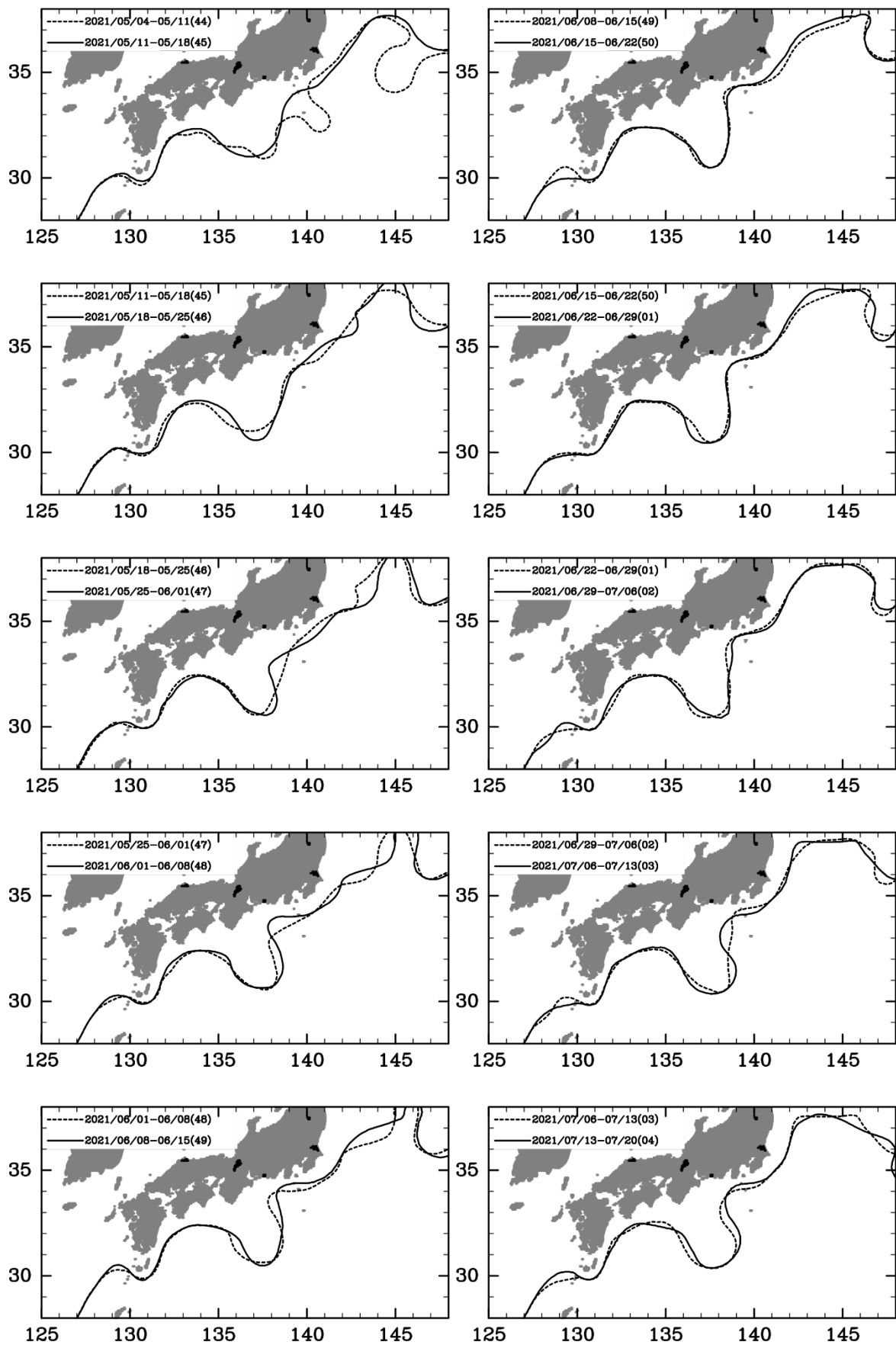


図2 (つづき) 黒潮流軸のパターン

(2021年5月~7月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

## マイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2021年8月～12月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2021年級群）、1歳魚（2020年級群）、2歳魚（2019年級群）、3歳魚（2018年級群）、4歳以上（2017年級以上）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

#### 1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域では前年を下回る。日向灘では前年を上回る。豊後水道では前年を下回る。宿毛湾、土佐湾では前年並～上回る。紀伊水道外域では前年並。熊野灘では前年並～下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：8 cm～16 cm 前後の0歳魚主体に漁獲され、16 cm 以上の1歳以上が混じる。

#### 2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では前年を上回る。駿河湾、相模湾では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：10 cm～15 cm 前後の0歳魚主体に漁獲され、15 cm 以上の1歳以上が混じる。

#### 3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は、8月～10月は道東が主漁場となり、三陸～房総海域は小規模な漁場形成となる。11月～12月には三陸～常磐海域が主漁場となる。定置網は、各地で期を通じて散発的に漁獲されるが、期の後半以降に本格化する。

(3) 魚体：10 cm～15 cm 前後の0歳魚、14 cm～17 cm 前後の1歳魚、15 cm～19 cm 前後の2歳魚、17 cm～21 cm 前後の3歳魚、19 cm 以上の4歳魚が漁獲される。

### 漁況の経過（2021年4月～6月）および見通し（2021年8月～12月）についての説明

#### 1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1980年代は1,000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って急減し、2002年以降2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した。その後、2010年～2014年に比較的良好的な加入が続いたこと、および漁獲圧が低下したことにより資源量は増加し、2014年には100万トンを上回った。その後も良好的な加入が続いたことにより資源量はさらに増加して、2019年は342万トンと推定された（2020年度資源評価）。

2017年級群（4歳魚）以上は、最近10年（以下、近年）において比較的高い加入量の年級群で構成されている。2020年における3歳以上としての漁獲状況も、好調であった前年並となっており、高い豊度を示

している。4歳以上の推定残存資源量は、前年並の高い水準にある。

2018年級群（3歳魚）は、加入量が635億尾と推定されており、近年において最も高い値となっている。2020年における2歳魚としての漁獲状況も前年を大きく上回っており、高い豊度を示している。2018年級群の推定残存資源量は、2017年級群の同時期を上回っている。

2019年級群（2歳魚）は、加入量が391億尾と推定されており、近年の高い水準を維持するものの2018年級群を下回る値となっている。2020年における1歳魚としての漁獲状況も、前年を下回った。2019年級群の残存資源量は、2018年級群の同時期を下回っている。

2020年級群（1歳魚）は、2020年に0歳魚として、主に西日本海域（北薩～土佐湾）において前年を上回る漁獲が見られている。沖合域においては、5月～6月の移行域幼稚魚調査（水産資源研究所）では前年と同程度の漁獲が見られ、6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所）および9月～10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所）では前年を上回る漁獲が見られている。2021年に入ってから、明け1歳魚として、三陸南部海域で多く漁獲されていることも踏まえ、現時点では不確実であるが、2020年級群の加入量は前年を上回る水準と考えられる。

2021年級群（0歳魚）に対応する2021年の産卵量は、691兆粒（2021年6月までの暫定値）と、2020年（723兆粒）と同程度であった。マシラスとしての漁獲は、漁獲の中心である渥美外海～駿河湾において、前年を上回っており、西日本の海域においても前年並～上回る漁獲が見られている。沖合域の調査において、5月～6月の移行域幼稚魚調査に基づく資源量指数は前年を上回った（ただし6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査では前年を下回る漁獲が見られている）。これらの情報から、現時点では不確実であるが、2021年級群の加入量は、前年並～上回る水準と考えられる。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

・来遊量：近年の漁獲状況から、今期の主な漁獲対象は0歳魚（2021年級群）であり、1歳（2020年級）以上が混じる。

北薩、薩南海域では、5月以降、漁獲状況が前年を下回って推移していることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

日向灘では、シラス類のマシラス混獲率が前年より高く、加えて6月以降に漁獲状況が好調になっていることから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

豊後水道西側では、0歳魚主体の前期の漁獲状況が前年を下回っていることから、今期の来遊量は好調であった前年を下回ると予測される。

豊後水道東側では、前期の0歳魚の漁獲状況が前年を下回っていることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、シラス漁の漁況から0歳魚の発生は前年並と見込まれる。また、中型まき網や定置網の漁獲状況は前年を上回っている。以上から、来遊量は前年並～上回ると予測される。

紀伊水道外域西部では、本海域では成魚を漁獲する漁業が少ないため、漁況から来遊量を予測することは



難しいが、近年の傾向から来遊量は前年並と予測される。

紀伊水道外域東部では、近年、8月～12月の1そうまき網での漁獲量が少ない傾向にあり、前期の棒受網の漁獲量も少なかったことから、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

熊野灘では、6月に定置網で0歳魚を主体に前年を上回る漁獲が見られたが、中型まき網では0歳魚がほとんど漁獲されていない。本海域への0歳魚の加入は前年を下回っている可能性がある。以上より、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、主体となる0歳魚は8 cm～16 cm前後。1歳以上は16 cm以上。

## (2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

・来遊量：近年の漁獲状況から、今期の主な漁獲対象は0歳魚（2021年級群）であり、1歳（2020年級）以上が混じる。

伊勢・三河湾、渥美外海では、前期のマシラス漁獲量が前年を上回っていること、および現在までぱっち網の操業がなく0歳魚が漁獲されずに成長していることを考慮し、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

駿河湾、相模湾西部では、5月、6月の漁獲状況が前年並となっており、現在漁獲されている資源が引き続き漁獲対象になると考えられることから、今期の来遊量は前年並となると予測される。

相模湾東部では、今後成長して0歳魚として漁獲対象になると考えられるマシラスの漁獲量が、低調であった前年をさらに下回った。ただし近年は、マシラス漁獲量と8月～12月の0歳魚漁獲量の関係が弱くなっていることを踏まえて、今期の来遊量は低水準だった前年並と予測される。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、主体となる0歳魚は10 cm～15 cm前後。1歳以上は15 cm以上。

## (3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期の漁獲対象は、1歳（2020年級）以上が主体となる。0歳魚は、房総～三陸南部海域で8月以降に漁獲され、常磐以北では漁期終盤に多くなる。

資源状態を反映して、1歳以上の来遊量は前年並～上回ると考えられる。漁期終盤に漁獲される0歳魚の来遊量は、現状ではかなり不確実であるが、現在得られている沖合域調査の結果から前年並～上回る水準と考えられる。房総～三陸南部海域において8月以降に漁獲される0歳魚の来遊量は、現時点で漁獲がほとんど見られていないことから、前年並の低水準と考えられる。本海域の漁獲の主体は1歳以上であることを踏まえ、全体としての来遊量は前年並～上回ると予測される。

・漁期・漁場：近年および直近の魚群の来遊状況から、まき網は、8月～10月は道東が主漁場となり、三陸～房総海域は小規模な漁場形成となる。11月～12月には三陸～常磐海域が主漁場となる。定置網は、各地で期を通じて散発的に漁獲されるが、期の後半以降に本格化する。

- ・魚体：近年の出現状況から、0歳魚は10 cm～15 cm前後、1歳魚は14 cm～17 cm前後、2歳魚は15 cm～

19 cm 前後、3 歳魚は 17 cm~21 cm 前後、4 歳以上は 19 cm 以上。

## カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2021年8月～12月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2021年級群）、1歳魚（2020年級群）、2歳魚（2019年級群）。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

#### 1. 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～紀伊水道外域では予測が困難。伊勢・三河湾、渥美外海、遠州灘～駿河湾では前年を下回る。相模湾では前年並～上回る。鹿島灘～常磐南部海域では前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

#### 2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域、日向灘、豊後水道西側では前年を下回る。豊後水道東側では前年を上回る。宿毛湾・土佐湾では前年並。紀伊水道外域では主たる漁獲対象ではない。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：10 cm以下の0歳魚主体に、10 cm以上の1歳以上が漁獲される。

#### 3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では予測が困難。伊勢・三河湾、渥美外海では前年を下回る。駿河湾、相模湾西部では前年並。相模湾東部では前年並～上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：9 cm以下の0歳魚主体に、10 cm～13 cmの1歳魚が漁獲される。

#### 4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総・常磐海域、三陸海域では前年並。道東海域ではまとまった来遊はない。

(2) 漁期・漁場：道東海域、常磐～房総海域の1そうまき網の主な漁獲対象にはならない。三陸海域の定置網および2そうまき網、房総沿岸海域の2そうまき網では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：6 cm～11 cmの0歳魚、9 cm～13 cmの1歳以上が漁獲される。

### 漁況の経過（2021年4月～6月）および見通し（2021年8月～12月）についての説明

#### 1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2020年度資源評価において、2002年の291万トンピークに減少傾向に転じ、2019年は12万トンと推定された。資源水準は低位、動向は親魚量の最近5カ年の推移から減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく、資源状態に応じて黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2019年級群（2歳魚）は加入量が299億尾と推定されており、2018年級群の164億尾を上回った。2019年級群の0歳魚および1歳魚としての漁獲量は2018年級群のそれらを上回る水準と推定された。沖合域の調査船調査では、2020年実施の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所）における推定1歳以

上の CPUE（有漁点 CPUE、以下同様）と出現率は、低水準ながらも前年を上回った。2020 年実施の北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所）における推定 1 歳以上の CPUE は、前年を下回ったものの、東経 160° 以東の亜寒帯水域に少ないながらも分布が認められた。以上のことから、2019 年級群は依然として低水準であり、前年を下回ると考えられる。

2020 年級群（1 歳魚）は、2020 年 7 月～11 月に東海海域を中心に、カタクチイワシシラスや 0 歳魚として漁獲され、それらの漁獲量は前年並であった。沖合域の調査では、2021 年実施の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（暫定値）において、推定 1 歳以上の CPUE と出現率は前年を下回ったものの、低水準な近年では高い値であった。2020 年実施の北西太平洋秋季浮魚類資源調査における推定 0 歳魚の CPUE は前年を上回り、東経 160° 以東の亜寒帯水域にも分布が認められ、出現率も高まった。これらのことから、2020 年級群は依然として低水準であり前年を下回ると考えられる。

2021 年級群（0 歳魚）は、現時点ではその水準を予測することは難しい。2021 年 1 月～6 月までの産卵量（I～IV 区の合計）は、2,286 兆粒と 2020 年同期（991 兆粒）を上回り、主要港における 4 月～6 月期のカタクチイワシシラス漁獲量は前年並であった。2021 年実施の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（暫定値）によれば、推定 0 歳魚 CPUE は 83.7 尾/網/時間で前年（19.7 尾/網/時間）を上回った。以上のことから、2021 年級群は低水準な前年並か前年を上回ると考えられる。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

・来遊量：西薩～紀伊水道外域では、今後大型成魚の来遊は少ないと予測されるが、シラスの漁場形成については予測が困難である。

伊勢・三河湾、渥美外海では、今期は、3 月～5 月の漁獲量がやや多かったが、6 月以降も引き続き渥美外海で操業され、降雨の影響もあって、内湾に漁場は形成されておらず、内湾の資源量が少ない状況が続いている。また、内湾で漁獲されたカタクチイワシの魚体サイズは小さく、成熟度も低く、伊勢湾内の卵採集数も、極めて多かった前年より少ない傾向が続いていることから、卵数が多く、夏季の湧昇による栄養塩供給が起き、環境にも恵まれた昨年に比べると、来遊量は下回る。

遠州灘～駿河湾では、地先観測の 5 月～6 月のカタクチイワシ卵平均採集数が、7 月～8 月の水揚量が低調であった 2008 年、2013 年、2015 年～2019 年並であったため、7 月～8 月の水揚量は低調になると考えられる。9 月～10 月の水揚量は、黒潮大蛇行期には非大蛇行期に比べて少なくなる傾向があり、現在の黒潮大蛇行は継続すると考えられることから、前年同様に低調と予測される。11 月～12 月の水揚量は、シラス漁の盛期を過ぎることから、前年同様に低調と予測される。2020 年は 7 月～8 月の黒潮流路の大きな変動に伴う暖水波及、また黒潮上流部での産卵量が多かったことにより水揚量が多かったと考えられるため、今期の来遊量は前年を下回る。

相模湾では、相模湾および東京湾口で 4 月～6 月に実施した卵稚仔調査においてカタクチイワシ卵が前年並か前年を上回る水準で採集されている。前年 7 月～12 月のシラス船びき網標本船 3 隻によるシラス漁獲量は前年並であったため、今期の来遊量は前年並か前年を上回る。

鹿島灘～常磐南部海域では、近年の漁獲量は 8 月～9 月に多く、10 月以降は減少傾向にある。近年、8 月

～9月の漁獲量は7月の沿岸水温(10m深)が高くなるほど減少する傾向にあり、さらに、10月～12月漁獲量は8月～9月漁獲量と正の関係がある。2021年7月の水温は近年では高めであるため、今期の来遊量は前年を下回る。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。

## (2) 北薩～紀伊水道外域(まき網、定置網)

・来遊量：北薩、薩南海域では、今期の漁獲の主体となる0歳魚(2021年級群)は4月～6月期に前年を下回って推移していることから、来遊量は前年を下回る。

日向灘では、今期の漁獲対象は2010年以降、沿岸発生群主体の0歳魚となっている。今期の0歳魚の漁獲量は、1月～6月期の宮崎県まき網漁獲量および大分県まき網漁獲量の相乗平均値と正の関係にあり、この指標値が前年より低いことから、来遊量は前年を下回る。

豊後水道西側では、今期は0歳魚が漁獲の主体となり1歳魚(2020年級群)が混じる。0歳魚が水揚げの主体であった1月～6月期の水揚量が前年を下回っていることから、来遊量は前年を下回る。

豊後水道東側では、周辺海域で発生したと推定される被鱗体長10cm以下の0歳魚が漁獲の主体となる。6月までのカタクチイワシラスの水揚量およびまき網での水揚量が前年同期を上回ったことから、来遊量は前年を上回る。

宿毛湾、土佐湾では、期を通じて0歳魚、1歳以上が漁獲の対象となる。上半期の宿毛湾小型まき網における「かえり」銘柄の水揚量と下半期の中型まき網水揚量には有意な正の関係が見られる。上半期の宿毛湾小型まき網における「かえり」銘柄の水揚量とこの正の関係式から予測される下半期の中型まき網水揚量は前年並であることから、来遊量は前年並となる。

紀伊水道外域では、未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではない。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：10cm以下の0歳魚主体に、10cm以上の1歳以上が漁獲される。

## (3) 熊野灘～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

・来遊量：熊野灘では、例年、マイワシなどにわずかに混じって漁獲されることが多いことから、今期もまとまった来遊はない。

伊勢・三河湾、渥美外海では、ぱっち網の操業が7月3日まで行われておらず、成長した個体が残存していると考えられるが、6月以降のカタクチイワシラスの漁獲量は前年に比べ低水準であり、秋以降の加入量も前年を下回ると予想される。以上のことから、来遊量は前年を下回る。

駿河湾、相模湾西部では、近年の漁獲傾向から、今期は主に1歳魚(2020年級群)が水揚げされる。例年、8月以降の相模湾西部の定置網への入網は散発的であり、さらに近年は資源量が少ないため予測は困難であるものの、近年は低調な水揚げが続いていることから、来遊量は前年並となる。

相模湾東部では、近年の漁獲傾向から、今期は未成魚である0歳魚(2021年級群)主体の漁獲になると考えられる。相模湾および東京湾口で2021年4月～6月に実施した卵稚仔調査では、本種の卵が平年並か平年を上回る水準で採集されており、今後これらが成長して未成魚として来遊することが予測される。前

年7月～12月の主要定置網による漁獲量は平年並であったことから、来遊量は前年並か前年を上回る。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：9 cm以下の0歳魚主体に、10 cm～13 cmの1歳魚が漁獲される。

#### (4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：房総・常磐海域では、近年は0歳魚（2021年級群）と1歳魚（2020年級群）が漁獲の主体となっている。前年11月～12月0歳魚および1月～6月1歳魚の漁獲量の合計値と、11月～12月1歳魚および翌年1月～6月2歳魚の漁獲量の合計値が正の関係にあることから、前年漁期の小型魚が翌年に大型魚となって再来遊すると考えられている。2020年11月～2021年6月の房総・常磐海域における小型魚（2020年級群）の漁獲量は、3,354トンで前年（3,545トン）並であることから、今期後半以降の漁獲対象となる1歳以上は低水準な前年並となる。0歳魚の来遊量は予測が困難である。現在の資源状況を鑑みると、来遊量は依然として低水準であり、前年並となる。

三陸南部海域では、0歳魚～2歳魚（2019年級群）が漁獲の主体となる。これまでの漁況経過から判断すると、定置網で断続的な水揚げが予測される。来遊量は依然として低水準だが、前年並となる。

三陸北部海域では、0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。これまでの漁況経過から判断すると、定置網およびまき網で断続的な水揚げが予測される。来遊量は依然として低水準だが、前年並となる。

道東海域では、漁業情報や調査船調査の結果から判断して、ほとんど漁獲がないことから、まとまった来遊はないと予測される。

・漁期・漁場：資源量が多い年には、道東海域のまき網では8月～10月に、常磐～房総海域の1そうまき網では12月以降に漁場が形成されていたが、資源量の少ない近年は主な漁獲対象にはならない。三陸南部海域の定置網および房総沿岸海域（外房～九十九里海域）の2そうまき網は期を通じて漁獲される。それ以外の海域ではまとまった漁獲はない。

- ・魚体：6 cm～11 cmの0歳魚、9 cm～13 cmの1歳以上が漁獲される。

## ウルメイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2021年8月～12月）

対象海域：北薩～熊野灘

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、多鈎釣

対象魚群：0歳魚（2021年級群）、1歳（2020年級群）以上。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

- (1) 来遊量：北薩・薩南海域および日向灘は前年並。豊後水道は前年を上回る。宿毛湾・土佐湾では前年並か下回る。紀伊水道外域は前年を下回る。熊野灘では前年並～上回る。全体としては前年並。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：0歳魚（8 cm～20 cm）が主体となる。海域により1歳以上（20 cm以上）も対象となる。

### 漁況経過（2021年1月～6月）および見通し（2021年8月～12月）についての説明

#### 1. 資源状態

資源状態は2020年度資源評価結果に基づき、卵稚仔調査に基づく産卵量から資源水準を、半年単位のコホート解析により推定した資源量から資源動向を判断した。漁獲の大部分を占める鹿児島県～三重県の漁獲量は、2015年に過去最高となり、2016年以降は減少が続き、2020年は前年より減少した。同海域の主要港水揚量も同様の推移をたどっているが、2021年前半の水揚量は前年同期を上回っている。

1978年以降の卵稚仔調査に基づいて求めた日向灘～潮岬（海区III）の年間産卵量は、2016年の134兆粒（高位水準）から減少して2018年には64兆粒となったが、2019年はやや増加して75兆粒となり、中位と低位の境界である60兆粒を上回ったため、資源水準は中位と判断された。コホート解析により推定した資源量は、最近5年間（2016年～2020年）において96千トンから47千トンへ減少したため、資源動向は減少と判断した。産卵量は2003年以降中位～高位水準を保っているものの、直近の資源は減少傾向にある。

#### 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

2021年後期（8月～12月）は0歳魚（2021年級群）主体の漁況になることが推測される。予測対象海域（鹿児島県～三重県）の主要港における前期（1月～6月）水揚量と後期（8月～12月）水揚量には、強い正の関係がある。2021年前期（1月～6月）の水揚量は9.5千トンであった。2000年～2020年の前期（1月～6月）水揚量と後期（8月～12月）水揚量の関係を用いて、2021年後期（8月～12月）の水揚量は18千トンと予測された。2020年後期（8月～12月）水揚量は17.8千トンであった。従って、2021年の後期（8月～12月）水揚量は、海域全体としては前年並と予測される。

北薩および薩南海域では、0歳魚（10 cm～17 cm）が主体となる。漁獲の主体となる0歳魚は2021年6月に前年並の漁獲があったことから、来遊水準は前年並と考えられる。

日向灘では、0歳魚～1歳魚（13 cm～20 cm台）が主体となる。0歳魚の漁況と、指標値（鹿児島県まき網1月～5月漁獲量、愛媛県まき網4月～6月漁獲量の相乗平均）の間に正の関係が認められ、2021年の指標値は前年並であることから、来遊水準は前年並と予測される。

豊後水道西側では、8月～10月は0歳魚（10 cm～15 cm）が主体となる。4月～6月のまき網水揚量が前年を上回ったことから、来遊水準は前年を上回ると予測される。

豊後水道東側では、0歳魚が主体となる。加入時期にあたる4月～6月と当歳魚が水揚げの主体となる8月～12月の漁獲量には正の関係が認められる。この関係から判断すると来遊水準は前年を上回ると予測される。

宿毛湾および土佐湾では、0歳魚、1歳魚が漁獲される。宿毛湾の中型まき網における前期水揚量と8月～12月の水揚量の間には、正の関係が認められ、この関係から来遊水準は前年並か下回ると予想される。紀伊水道外域西部では、例年この時期にはほとんど漁獲がなく、漁況から来遊水準を判断することは難しい。

紀伊水道外域東部では、2021年4月～6月の1そうまき網は漁獲がなかった。2018年以降は、8月～12月の漁獲量がなく、2021年も同様の傾向であると考えられる。また、2021年4月～6月の棒受網は漁獲が少なかった。これらのことから8月～12月の漁獲は前年を下回ると予測される。

熊野灘では0歳魚（8 cm～20 cm）が主体となり1歳魚～3歳魚（20 cm以上）も漁獲される。例年、8月～12月に漁獲主体となるのは0歳魚で、2010年～2017年、2019年、2020年は定置網の5月、6月とまき網の8月～11月の漁獲量に正の関係がみられたが、2018年はその関係が見られず、特異的な不漁となった。この原因としては、2018年は5月、6月の定置網が1歳魚主体で0歳魚が少なかったことが影響したと考えられる。今年度は定置網における5月、6月の漁況が0歳魚主体に前年を上回っているため、来遊水準は前年並～上回ると予測される。なお、熊野灘ではウルメイワシは積極的に漁獲されないため、漁獲が来遊を反映しない可能性もある。



## マアジ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2021年8月～12月）

対象海域：北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業：まき網、定置網

対象魚群：0歳魚（2021年級群）、1歳魚（2020年級群）、  
2歳魚（2019年級群）、3歳（2018年級群）以上。  
年初に加齢、魚体は尾叉長。

#### 1. 北薩～土佐湾（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：北薩～薩南海域、宿毛湾・土佐湾では前年を上回る。日向灘、豊後水道南部では前年並。
- (2) 魚体：北薩～薩南海域では0歳魚～1歳魚主体、日向灘、豊後水道南部では0歳魚が主体、宿毛湾・土佐湾では0歳魚、1歳魚が主体。0歳魚は19 cm以下、1歳魚は19 cm～25 cm、2歳以上は23 cm以上。

#### 2. 紀伊水道外域～熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：前年並
- (2) 魚体：紀伊水道外域西部では0歳魚主体、紀伊水道外域東部では1歳魚～2歳魚主体、熊野灘では1歳魚主体に0歳魚および2歳以上が混じる。0歳魚は19 cm以下、1歳魚は19 cm～25 cm、2歳魚は23 cm～27 cm、3歳以上は25 cm以上。

#### 3. 相模湾（定置網）

- (1) 来遊量：伊豆東岸では前年を上回り、西湘地区では前年並。
- (2) 魚体：主体となる0歳魚は19 cm以下、1歳魚は19 cm～22 cm。

### 漁況の経過（2021年1月～6月）および見通し（2021年8月～12月）についての説明

#### 1. 資源状態

資源量は1986年以降増加し、1990年代半ばは15万トン～16万トンと高い水準で推移したが、1997年以降減少した。2009年～2013年は横ばいで推移したが、その後再び減少している。加入量は1993年をピークに減少し、2009年以降3.2億尾～7.1億尾と低い水準で推移している。令和2年度（2020年度）資源評価において、2019年の資源量は3.8万トン、親魚量は2万トンと推定され、親魚量の水準はMSYを実現する水準を下回り、動向は減少と判断された。

2018年級群（3歳魚）の加入量は3.9億尾と推定され、残存資源量は少ない。

2019年級群（2歳魚）の加入量は3.4億尾と推定された。2019年後半～2020年前半の漁況は低調に推移しており、残存資源量は少ないと考えられる。

2020年級群（1歳魚）は、いずれの海域でも漁獲対象になる。0歳魚時（2020年1月～12月）の漁獲尾数は110百万尾と、前年同期（102百万尾）と同程度であり、1歳魚時（2021年1月～6月）の漁獲尾数（主要港集計、暫定値）も13百万尾と、前年同期（主要港集計、12百万尾）と同程度であった。加入量の指標となる0歳魚時の漁獲状況は、宇和島港まき網ゼンゴCPUE、伊勢湾小型底びき網（まめ板）当歳魚漁獲量（いずれも2020年4月～2021年3月）、および千葉県定置網当歳魚漁獲量（2020年10月～2021年3月）は前年同期を下回った。串本棒受網当歳魚漁獲量（2020年5月～6月）、宮崎県南部定置網アジ仔CPUE、宿毛湾まき網ゼンゴCPUE、伊豆東岸定置網当歳魚漁獲量（2020年4月～2021年3月）は前年と同程度か前年を上回ったものの低い水準であった。これら指標値の動向から2020年級群（1歳魚）の加入量は2019年級群並かこれを下回る低い水準と考えられる。

2021年級群（0歳魚）は、いずれの海域でも漁獲対象になる。2021年1月～6月の漁獲尾数（主要港集

計、暫定値)は6百万尾と、前年同期(主要港集計、13百万尾)を下回った。各県地先の0歳魚の漁獲状況を4月~6月で比較すると、伊勢湾小型底びき網(まめ板)当歳魚漁獲量と串本棒受網当歳魚漁獲量(5月~6月)は前年を上回ったが、宮崎県南部定置網アジ仔CPUE、宇和島港まき網ゼンゴCPUE、宿毛湾まき網ゼンゴCPUE、伊豆東岸定置網当歳魚漁獲量は前年を下回った。現時点での見積もりは不確実であるが、2021年級群(0歳魚)の加入量は2020年級群並かこれを下回る低い水準と考えられる。

## 2. 来遊量、漁期・漁場

本魚種は予測期間を通じて漁獲対象となる。来遊量については、海域ごとに前期の漁況に基づき予測した。年齢別体長は、これまでの体長組成の推移から概ね次のとおりである。0歳魚:19cm以下、1歳魚:19cm~25cm、2歳魚:23cm~27cm、3歳以上:25cm以上。3歳以上の年齢に対応した体長区分は現状では困難である。なお近年の報告によると、相模湾以東では尾叉長20cm台に3歳から10歳以上の高齢魚がみられることが明らかになってきている。したがって相模湾については報告された年齢体長キーから判断し、0歳魚:19cm以下、1歳魚:19cm~22cmとした。

### (1) 北薩~土佐湾

北薩~薩南海域では、0歳魚~1歳魚(2021年級群~2020年級群)が漁獲の主体となる。0歳魚を含む2020年4月~6月の0~1歳魚(豆、仔銘柄)の水揚量が前年を上回っていることから、今期(8月~12月漁期)も前年を上回ると考えられる。

日向灘では、0歳魚(2021年級群)が漁獲の主体となる。0歳魚の漁獲量は日向灘南部大型定置網アジ仔CPUE、宇和海南部まき網漁獲量、大分県まき網漁獲量を用いた指標値と正の関係が認められ、この関係から判断して今期の来遊量は前年並と予測される。

豊後水道南部西側では、0歳魚(2021年級群)が漁獲の主体となる。2021年1月~6月における豊後水道南部主要3港の水揚量は前年並であり、低調な漁獲が続いている。一方で、前年の漁獲量は過去2番目に低い値であったことを考慮すると来遊水準は前年並と予測される。

豊後水道南部東側では、0歳魚(2021年級群)が漁獲の主体となる。前期の0歳魚の水揚量が前年並で推移していることから今期の来遊量は前年並と予測される。

宿毛湾・土佐湾では中型まき網で0歳魚(2021年級群)の来遊が前年より多いことから、来遊量は前年を上回ると考えられる。

### (2) 紀伊水道外域~熊野灘

紀伊水道外域西部では、2021年1月~6月の漁獲量は前年同期を上回った。例年この時期にはほとんど漁獲がなく、漁況から来遊水準を判断することは難しいが、近年の動向から平年並み~平年を下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、1歳魚~2歳魚(2020年級群~2019年級群)が漁獲の主体となる。潮岬沖の黒潮の離岸状況次第で、来遊および漁場形成条件が好転する可能性はあるが、2021年1月~6月の漁獲状況から、来遊量は前年並で平年を下回ると予測される。

熊野灘では、前期のまき網の漁況から1歳魚の来遊量は前年並であり、0歳魚については定置網の漁況から前年を上回ると考えられる。以上総じて、前年並~上回ると予測される。

### (3) 相模湾

伊豆東岸では、0歳魚(2021年級群)が漁獲の主体となる。0歳魚の1月~6月の漁獲尾数と7月~12月の漁獲尾数には正の関係が認められ、この関係から来遊量は前年を上回ると予測される。

西湘地区では、0歳魚(2021年級群)が漁獲の主体となり、1歳魚(2020年級群)も漁獲される。1月~6月の0歳魚漁獲量と7月~12月のマアジ総漁獲量には一定の関係性が認められており、この関係から判断して来遊量は前年並と予測される。

### (4) 房総~三陸海域の漁獲情報

房総~鹿島灘海域における北部まき網の2021年1月~6月の漁獲量は123トンと、極めて低調であった前年同期1,471トンを大きく下回った。今期の予測期間中、1そうまき網はマイワシ、サバ類、スルメイカを対象とした三陸海域以北での操業が中心となり、マアジは漁獲の主対象とならない。仙台湾~三陸海

域では、宮城県の2021年1月～6月の漁獲量は14トン、岩手県の2021年1月～6月の定置網による漁獲量は5.3トンと前年を下回った。青森県では2021年1月～6月の漁獲量は平館定置網を中心に19トンとなり、前年を下回った。

## マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し (2021年8月～12月)

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい等

対象魚群：0歳魚(2021年級群)、1歳魚(2020年級群)、2歳魚(2019年級群)、  
3歳魚(2018年級群)、4歳魚(2017年級群)、5歳魚(2016年級群)、  
6歳(2015年級群)以上。  
年初に加齢。魚体は尾叉長。

#### 1. 北薩～日向灘～豊後水道南部～土佐湾(まき網、定置網等)

- (1) 来遊量：北薩～薩南、土佐湾ではゴマサバ主体に漁獲され、サバ類全体としては前年を上回る。日向灘、豊後水道南部ではマサバ主体に漁獲され、サバ類全体としては前年並。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバは北薩～薩南では30cm～37cm(3歳魚～5歳魚)主体、日向灘～豊後水道南部では20cm～32cm(0歳魚、1歳魚)主体、土佐湾では30cm～38cm(3歳魚～5歳魚)主体。マサバは日向灘～豊後水道南部では30cm以下(0歳魚、1歳魚)主体。

#### 2. 紀伊水道外域(まき網、定置網)

- (1) 来遊量：マサバを主体とするサバ類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：マサバは29cm～35cm(2歳魚、3歳魚)主体、ゴマサバは32cm～38cm(3歳魚～5歳魚)主体。

#### 3. 熊野灘(まき網、定置網)

- (1) 来遊量：マサバは前年を上回る。ゴマサバは前年を上回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：マサバは15cm～25cm(0歳魚)主体に28cm～39cm(1歳以上)も漁獲される。ゴマサバは27cm～35cm(1歳魚～3歳魚)主体に20cm～25cm(0歳魚)、35cm～39cm(4歳以上)も漁獲される。

#### 4. 伊豆諸島周辺海域(棒受網、たもすくい)

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。ゴマサバ全体としては低調であった前年並。サバ類全体としては低水準。
- (2) 漁期・漁場：期を通じて伊豆諸島北部海域が主漁場となり、三宅島周辺海域、銭洲海域にも漁場が形成される。
- (3) 魚体：ゴマサバは31cm～35cm(3歳魚)主体に、26cm～30cm(1歳魚)、28cm～32cm(2歳魚)および33cm以上(4歳以上)も漁獲される。

#### 5. 犬吠～三陸海域、道東海域(まき網、定置網等)

- (1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳魚は前年並。5歳魚は前年を上回る。6歳魚は前年並。マサバ全体としては前年を上回る。ゴマサバは混獲される程度。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：定置網は期を通じて漁獲される。まき網漁場は、8月～10月は道東海域～三陸北部、11月～12月は三陸北部～犬吠海域に主に形成される。
- (3) 魚体：マサバは26cm～36cm(3歳以上)主体に、18cm～28cm(1歳魚、2歳魚)も漁獲される。

## 漁況の経過（2021年1月～6月）および見通し（2021年8月～12月）についての説明

### 1. 資源状態

#### 1) マサバ

資源量は1990年代～2000年代前半に極めて低い水準にあったが、2013年以降の加入量水準の高い年級群の発生と漁獲圧の低下により資源量が増加し、加入量水準の極めて高い2018年級群により、2019年の資源量は1970年以降で最も高い値となった。2013年級群以降、成長および成熟の遅れがみられている。

2015年級群（6歳魚）は、2020年12月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入量が67億尾と最近10年（以下、近年）の平均（103億尾）を下回る水準であり、残存資源量は高齢となつて少なくなっている。

2016年級群（5歳魚）は、推定加入量が113億尾と近年の平均程度の水準であり、これまでの漁獲物に占める割合は比較的高い。

2017年級群（4歳魚）は、推定加入量が100億尾と近年の平均程度の水準であり、これまでの漁獲物に占める割合は比較的高い。

2018年級群（3歳魚）は、推定加入量が301億尾と卓越して高い水準であり、これまでの漁獲物に占める割合は比較的高い。

2019年級群（2歳魚）は、推定加入量が58億尾と近年の平均を下回る水準であるが、これまでの漁獲物に占める割合は低くなく、加入量の見積もりの不確実性は高い。

2020年級群（1歳魚）の加入量は、2020年の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所、6月～7月、2001年以降実施）、北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所、9月～10月、2005年以降実施）および再生産関係から近年の平均程度の水準（103億尾）と推定されている。

2021年級群（0歳魚）は、北西太平洋北上期浮魚類資源調査における出現率が72%であり、過去の同調査（21年間）で最も高い値であることから、現時点での加入量の見積もりは不確実であるが、近年の平均を上回る水準と見込まれる。

#### 2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半から高い水準にあったが、2011年以降、減少傾向を示し、2019年の資源量は低い水準となっている。

2016年級群（5歳魚）は、2020年12月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入量が3.0億尾と近年の平均（4.8億尾）を下回る水準であり、残存資源量は高齢となって少なくなっている。

2017年級群（4歳魚）は、推定加入量が2.3億尾と近年の平均を下回る水準である。

2018年級群（3歳魚）は、推定加入量が2.2億尾と近年の平均を下回る水準である。

2019年級群（2歳魚）は、推定加入量が1.1億尾と近年の平均を大きく下回る水準である。

2020年級群（1歳魚）の加入量は、再生産関係から近年の平均程度の水準と推定されているが、これまでの漁獲物に占める割合は低く、加入量の見積もりの不確実性は高い。

2021年級群（0歳魚）は、定置網などの各地漁業で漁獲がみられているものの、漁況は低調に推移していることから、現時点での加入量の見積もりは不確実であるが、近年の平均を下回る水準と見込まれる。

### 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

#### 1) マサバ

##### (1) 来遊量

資源状態の項に前述のとおり、0 歳魚（2021 年級群）は、これまで得られている情報から加入量が近年の平均を上回る水準と考えられ、来遊量は前年を上回る。1 歳魚（2020 年級群）は、加入量が近年の平均程度の水準と考えられ、来遊量は前年を上回る。2 歳魚（2019 年級群）は、加入量が近年の平均を下回る水準と考えられ、来遊量は前年を下回る。3 歳魚（2018 年級群）は、加入量が卓越して高い水準であり、来遊量は前年を上回る。4 歳魚（2017 年級群）は、加入量が近年の平均程度の水準であり、来遊量は前年並。5 歳魚（2016 年級群）は、加入量が近年の平均程度の水準であり、来遊量は前年を上回る。6 歳魚（2015 年級群）は、加入量が近年の平均を下回る水準であり、来遊量は前年並。全体の来遊量は前年を上回る。

## (2) 漁期・漁場、魚体

1 月～6 月の漁獲量は、犬吠以北海域のまき網は 86.4 千トン（前年同期実績 61.9 千トン）、犬吠以北海域の定置網・底びき網などは 18.5 千トン（同 16.9 千トン）、伊豆諸島周辺海域のたもすくい・棒受網は 3.3 千トン（同 4.3 千トン）、伊豆半島～駿河湾～熊野灘のまき網・定置網は 42.1 千トン（同 32.5 千トン）、紀伊水道外域～北薩の全漁業では 15.3 千トン（同 37.6 千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

1 月～6 月の魚体は次のとおりであった。犬吠以北海域のまき網では、27 cm～36 cm の 3 歳以上が主体に漁獲された。三陸海域の定置網・底びき網などでは、26 cm～36 cm の 3 歳以上が主体に漁獲され、底びき網では 2 月、3 月には 19 cm～26 cm の 1 歳魚、2 歳魚も漁獲された。産卵場である伊豆諸島周辺海域では主に伊豆諸島北部海域が漁場となり、28 cm～39 cm の 3 歳以上が主体に漁獲された。駿河湾～北薩のまき網では、伊豆諸島周辺海域とほぼ同様の魚体が漁獲され、5 月、6 月には 20 cm 以下の 0 歳魚も漁獲された。

本予測期間は、犬吠以北海域のまき網、定置網での漁獲が中心となり、3 歳以上が主体に 1 歳魚、2 歳魚も漁獲される。魚群の南下は昨年と同様に遅れる可能性があり、まき網漁場は 8 月～10 月は道東海域～三陸北部に、11 月～12 月は三陸北部～犬吠海域に形成される。各地の定置網では期を通じて断続的に漁獲される。伊豆諸島周辺海域以西への来遊量は低水準ではあるが、熊野灘、豊後水道南部、日向灘では 0 歳魚、1 歳魚主体、紀伊水道外域では 2 歳魚、3 歳魚主体に、一時的にまとまった漁獲がみられる。

漁獲の主体となる犬吠以北海域の年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次のとおりである。1 歳魚：18 cm～27 cm 前後、2 歳魚：22 cm～28 cm 前後、3 歳魚：26 cm～32 cm 前後、4 歳魚：29 cm～34 cm 前後、5 歳魚：30 cm～34 cm 前後、6 歳以上：32 cm 以上。0 歳魚は伊豆諸島以西でも漁獲され、例年の傾向から 15 cm～25 cm 前後と予測される。（各年齢の体長の範囲は広く重なり合っている）

## 2) ゴマサバ

### (1) 来遊量

資源状態の項に前述のとおり、0 歳魚（2021 年級群）は、直近までの漁況を考慮すると来遊量は低調であった前年並と考えられる。1 歳魚（2020 年級群）は、加入量が近年の平均程度の水準と推定され、来遊量は前年を上回ると考えられる。2 歳魚（2019 年級群）は、加入量が近年の平均を大きく下回る水準であり、来遊量は前年を下回る。3 歳魚（2018 年級群）は、加入量が近年の平均を下回る水準であり、来遊量は前年並。4 歳（2017 年級群）以上は残存資源量が少なくなっており、漁獲の主体とならない。ゴマサバの来遊量は、北薩～薩南海域、土佐湾、熊野灘では前年を上回り、伊豆諸島周辺海域では低調であった前年並の低水準となり、犬吠以北海域では混獲される程度にとどまり、全体としては低水準の来遊量となる。

### (2) 漁期・漁場、魚体

1月～6月の漁獲量（全漁業）は、北薩～紀伊水道外域は6.5千トン（前年同期実績6.0千トン）、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は5.6千トン（同3.6千トン）、犬吠以北海域は3.0千トン（同1.9千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

1月～6月の漁獲の主体は、北薩～薩南海域では3歳魚～5歳魚、日向灘～豊後水道南部では0歳魚、1歳魚、熊野灘では1歳魚～5歳魚、伊豆諸島周辺海域では3歳魚、犬吠～三陸海域では3歳魚、4歳魚であった。

本予測期間における各地の漁期・漁場と魚体は、北薩～薩南海域では3歳魚～5歳魚主体、日向灘～豊後水道南部では0歳魚、1歳魚主体、土佐湾、紀伊水道外域では3歳魚～5歳魚主体、熊野灘では1歳魚～3歳魚主体に0歳魚、4歳以上も混じり、それぞれ期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では、伊豆諸島北部海域を中心に3歳魚主体に1歳魚、2歳魚、4歳以上も混じり期を通じて漁場が形成されるが、黒潮流路によっては三宅島周辺海域、銭洲海域にも漁場が形成される。犬吠以北海域のまき網では混獲される程度にとどまり、定置網では一時的にまとまった漁獲がみられる。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次のとおりである。0歳魚：20 cm～25 cm 前後、1歳魚：25 cm～32 cm 前後、2歳魚：27 cm～34 cm 前後、3歳魚：29 cm～37 cm 前後、4歳以上：32 cm 以上。（各年齢の体長の範囲は広く重なり合っている）

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
福島県水産海洋研究センター	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
静岡県水産・海洋技術研究所	(取りまとめ機関)
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
三重県水産研究所	